

発表2 テストがクラスのあり方そのものを変えていく

2.1 客観的な評価を模索して

- 1) OPIからOJAE研究へ
- 2) CEFRの複文化複言語主義が学生の中に定着
- 3) OJAE応用の修了口頭試験を採用

クラス活動の変化につながる

2.2 シラバスの流れ

1. 3年間のシラバス作り→教材決定→相互理解の基に到達目標を「B2」に決定
2. 自由テーマの3分スピーチ→10のテーマ「歴史、企業、人生、教育、食生活、エネルギー、経済発展、異文化、人、言葉」で語彙の定着を図る→二人1組での発表
3. メディアの授業(ニュース)
4. 口頭試験の試験形態についてDVDで表示:
学生自身の気づき!
5. 評価の基準を説明→何が測られるかの理解を促す



2.3 CEFR-OJAE B2レベルとは： 自らの言葉で話し、意見をまとめる力

- 1) 習得した語彙を自らの言葉として使いこなす
- 2) 自らテーマを選び、掘り下げる
- 3) 意見を短く要領よくまとめる能力
- 4) 対話できる能力：反論あり、同意があり、その中から新しい見方が導かれる

2.4 評価する側の姿勢

1) 口頭試験の形態を示し、繰り返し議論

OJAEの基準ビデオの使用→自発的な練習

2) 試験の際のパートナーを決める

3) 何をどういう基準で測るか、評価の基準を明示

4) フィードバックが可能

今後の勉強の方向性を示す

2.5 生きたコミュニケーション に求められるもの (参照: 第3発表)

- 1) 相手の意見を丁寧に聴き取る
- 2) 相槌を打つ
- 3) 理解を示す / 反意を示す
- 4) 助け舟を出す
- 5) 相手の意見をまとめ、自らの意見を深める
- 6) 多様な意見を統合 → 新しい発見

二人で真摯にテーマに取り組み、二人で築き
上げる対話

2.6 どのように測るか

- 1) 対話の二人を比べるものではない
- 2) 競合ではない
- 3) 基準に基づいてCEFRの5領域で測る
- 4) 5領域を等分に評価(2領域ずつ)
- 5) 対話を測る

対話に向かう意欲を評価→コミュニケーションの場

2.7.1 授業者:新しい発想の試験

- 1) 従来の試験と違い、試験官が被験者に質問をして答えを求めるものではない
- 2) 被験者同士が対話→二人が築きあげたもの→自分の言葉で語り出す→力を出し切る
- 3) ハラハラする瞬間の場を仕掛ける

2.7.2 学生：次に繋げるためのステップ

- 1) 生きた対話から、新しい思考が芽生えた
- 2) 単なる試験で終わるのではなく、次のステップに向かって歩き出すための示唆が得られた
- 3) 試験後の清涼感！達成感！

2.8 コミュニケーションを測るとは

- OJAE設計図から -

情報発信:

- (11)過程を説明する、(12)提案する
- (13)文脈指示のこそあ
- (14)モダリティ表現
- (15)考えを述べる

やりとり:

- (30)人物インタビュー
- (38)明確さを求める
- (39)発言を訂正する

やりとり管理:

- (46)場面を適切に把握して話を進める

社会言語適切さ:

- (49)待遇表現 常体/敬体(49)の区別可能

OJAE Team
Stand: 26.03.17

OJAEテスト作成 設計図
Blueprint 14.10.2010 akt.26.03.17

8. et al. 2002, in checklist 'ing-test tasks'.

番号	言語機能	Linguistic Functions	A1	A2	B1	B2	C1	C2
1	新出語の発想を促す	Creating by creating someone new		X				
2	自分のことについて話す	Talking about oneself		X				
3	指称語 (「消費的コ、シ動詞」)	Deixis I: Ko-ao-Paradigm		X				
4	好き嫌いを出す	Stating Liking-Disliking			X			
5	未来のことについて話す	Stating about future			X			
6	感情を表現する	Expressing one's emotion		X				
7	描写する	Describing		X				
8	比較する	Comparing			X			
9	意見を述べる	Expressing opinions			X			
10	理由をつける	Justifying opinions			X			
11	過程を説明する	Explaining a procedure			X			
12	提案する	Suggesting			X			
13	指称語Ⅱ (コソア 前方/後方指称)	Deixis II: Ko-so-a Paradigm + Anaphora/Metaphora			X			
14	生字/ラテン語 (留声機・留声機) を使う	Using evidential markers			X			
15	考えを述べる	Stating one's thought			X			
16	推測する	Speculating					X	
17	より詳細に述べる (詳細に述べる)	Elaborating					X	
18	要約する	Summarizing					X	
19	他人の感情・考えを述べる	Describe other people's feelings and thoughts					X	
20	簡潔・意図に沿って報告と要約する	Expressing oneself with precision appropriately and effortlessly						X
21	ニュアンス・含意の明確・慣用表現なども使い分ける	Differentiating finer shades of meanings, connotations, idioms						X
22	論拠や論点を一貫して述べる	Arguing logically with coherent grounds and points						X
23	Yes-No 質問を数える	Asking Yes-No-Questions		X				
24	Yes-No-Questioning	Answering Yes-No-Questions		X				
25	疑問詞も使った質問をする	Asking for information (including WH-questions)			X			
26	疑問詞の質問に答える	Answering WH-questions			X			
27	意見を求める	Asking for opinions			X			
28	賛意を述べる	Agreeing			X			
29	異議を唱える	Disagreeing			X			
30	人物インタビューをする	Interviewing someone				X		
31	説得する	Persuading					X	
32	補正する	Modifying					X	
33	相手の意見を理解しながら、自分の意見を述べる	Suggesting/Proposing ideas, while checking the responses of the partner						X
34	違和感を起こさずやり取りができる	Interacting so smoothly that the interlocutor reserves hardly any awkwardness						X
35	意味交渉 Negotiating meaning	理解の確認をする	Check understanding			X		
36		理解を介する	Indicate understanding			X		
37		共通基盤を確立する	Establish common ground			X		
38		明確さを求める	Request clarification				X	
39		発言を訂正する	Correct own utterances				X	
40		requested					X	
41		多言語/流暢な表現が駆使できる	Employ meta-language skillfully					X
42	話し始める	Initiating a conversation			X			
43	話し終わる	Ending a conversation			X			
44	一語強かし合う	Reciprocating			X			
45	決定する	Deciding			X			
46	場面を適切に把握して話を進める	Direct & justify the flow according to the situation					X	
47	授受動詞 (丁寧/社交語、丁寧/社交語)	Person-oriented Honorifics I (Gesu, masu)		X				
48	授受動詞 (〜をあげる/〜をあげる)	Receiving/Giving goods			X			
49	待遇表現 常体/敬体	Sociative Informal/Formal				X		
50	授受動詞 (〜してあげる/〜してあげる)	Receiving/Giving benefits					X	
51	婉曲表現	Euphemistic expressions evading "directness"					X	
52	授受動詞Ⅱ (ビジネス)	Person-oriented Honorifics II (De, gozaimasu)						X
53	授受動詞 (丁寧/社交語)	Person-oriented Honorifics						X

2.9.1 OJAE 基準表 5領域評価 階層性 「交話力」を例に



C2+	様々な話題で、違和感を起こさせず、会話の流れを織り成していく。
C2	様々な話題で、自分の話を相手の話に関連づけていく。
C1	様々な話題で、適切なきに、適切な前置き表現を選び、発話権を得て、自分の話を相手の話に関連づけていく。共話をすることもある。
B2	多少違和感はあるが、適切なきに発話権を取る。相手の発言を誘ったり、理解を確認したりして、話を展開させていく。
B1	身近なことについてなら、自己選択で発話権を取ったり、言いたいことを続け、終わらせる。理解を示すために、相手の発言を部分的に繰り返すこともある。
A2	質問に答えられ、相手の簡単な発話に応じる。
A1	個人的な事柄について質問をしたり、答えたりする。



第22回AJEヨーロッパ日本語教育
シンポジウム
「平和への対話」

ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会
Venezia ICJLE 2018

2018年08月03日(金) ~ 2018年08月04日(土)

CA' FOSCARI UNIVERSITY OF VENICE (ITALY)

8月3日(金) 会場2 San Giobbe 14:00 - 15:30 <https://eijale.wordpress.com/>

5A【パネル】OJAE(Oral Japanese Assessment Europe)ヨーロッパ生まれの

日本語コミュニケーション能力テスト:測る>伸びる>育む

—対話力を鍛えて「ことば」のできる世界市民となる—

使用幅

C2+	不慣れた話題でも抽象的な話題でも、意見を述べたり交換したりする際にも、広範な幅の語彙と表現手段を柔軟且つ適切に使いこなす。
C2	不慣れた話題でも抽象的な話題でも、意見を述べたり交換したりする際にも、広範な幅の語彙と表現手段を適切に使いこなす。
C1	慣れた話題でも不慣れた話題でも、意見を述べたり交換したりする際にも、広い幅の語彙と表現手段を適切に使う。
C2	慣れた話題の範囲でなら、意見を述べたり交換したりする際にも、適切な語彙を使う。
C1	慣れた話題についてなら、適切な語彙を使って話す。
A2	日常場面で基本的な語句や定形表現を使って話す。
A1	ごく身近な事柄に関して基本的な語句や定形表現を使う。

結束性

C2+	さまざまな結束表現を幅広く適切に使いこなし、一貫した明瞭な発話を展開する。
C2	さまざまな結束表現を幅広く使い、一貫した明瞭な発話を展開する。
C1	さまざまな結束表現を使い、明瞭なまとまりのある発話を構成する。
B2	使える結束表現は限られていても、まとまりのある発話へつなげる。
B1	一連の短い文を接続表現で直線的につなげてまとめる。
A2	簡単な接続詞を使って、短文を結びつける。
A1	ごく限られた接続詞のみ使う。

EiJALe European Institute for
Japanese Language Education
ヨーロッパ日本語教育学研究所



SIG

CEFR準拠
日本語口頭産出能力評価法
Oral Japanese Assessment Europe

配布資料

ヨーロッパ日本語教育学研究所
EIJALe-OJAE 研究チーム

パネル発表: 萩原幸司・梅津由美子・酒井康子
高木三知子・山田ボヒネック頼子

テスト評価5領域 (暫定版) 2018.08.03 現在)

正確さ

C2+	複雑な文法構造でも正確に、かつ柔軟に使いこなす。
C2	複雑な文法構造でも正確に使いこなす。
C1	簡単な文法構造は正確に使い、待遇表現など複雑な文法構造でもほぼ正確に使う。
B2	簡単な文法構造はほぼ正確に使い、複雑な文法構造も幾つか使ってみる。
B1	基本的な文法は正確に使う。
A2	基本的な間違いはあるが幾つかの限られた文法構造は正確に使う。
A1	限られた文法構造と記憶した表現のみ使う。

流暢性

C2+	抽象的な話題で概念化が難しい時でも、自然な口語体で、臨機応変に軽々と表現する。
C2	抽象的な話題で概念化が難しい時でも、自然な口語体で、軽々と表現する。
C1	抽象的な話題で概念化が難しい時を除いては、自然な口語体で表現する。
B2	長めの自由発話では、ときどきつかえることはあっても一定のスピードで話す。
B1	長めの自由発話では休止があっても話の主要点は伝えられる。
A2	休止や、話し出しの仕方の間違い、言い直しがあるが、短い話ならできる。
A1	つかえながらも既習の表現を使う。

対話力

C2+	様々な話題で、違和感を起こさせず、会話の流れを織り成していく。
C2	様々な話題で、自分の話を相手の話に関連づけていく。
C1	様々な話題で、適切なきに、適切な前置き表現を選び、発話権を得て、自分の話を相手の話に関連づけていく。
B2	多少違和感が残るが、適切なきに発話権を取る。相手の発言を誘ったり、理解を確認したりして、話を展開させていく。
B1	身近なことについてなら、自己選択で発話権を取ったり、言いたいことを続け、終わらせる。理解を示すために、相手の発言を部分的に繰り返すこともある。
A2	質問に答えられ、相手の簡単な発話に応じる。
A1	個人的な事柄について質問をしたり、答えたりする。

2.9.2 B2 評価5領域 基準表

- 1) 使用幅: 慣れた話題の範囲でなら意見を述べたり交換したりする際にも適切な語彙を使用
- 2) 正確さ: 簡単な文法構造はほぼ正確に使用。複雑な文法構造への挑戦もある
- 3) 流暢性: 長めの自由発話では、時々つっかえることはあっても一定のスピードを保つ
- 4) 結束性: 使える結束表現は限られていても、まとまりのある発話へ繋げる
- 5) 交話力: 多少違和感は残るが、適切なきに発話権を取る。相手の発話を誘ったり、理解を確認。話を展開させていく

B2評価シート: X 1 ○ の意味

B2			試験者			記録者				
実施データ			被験者1			被験者2				
			名:	名:	Jae学習歴	Jae学習歴	自然・機関 年 ヶ月	自然・機関 年 ヶ月	第1,2,3_言語:	
			特記:	特記:						
			特記:	特記:						
質問・機能			H 使用幅	S 正確さ	R 流暢性	K 結束性	I 交話	コメント(論拠)		
I	1-1	OJAE 設計図	A	○ 1 X	○ 1 X			A	B	
			B	○ 1 X	○ 1 X					
	30	○	C1	慣れない話題・広い幅の語彙適切に	複雑でもほぼ正確	抽象的な話題以外は、自然な口語体	～を使い、明確な発話を構成	様々な話題、適切なとき、前置き表現、発話種を持って自分の話しを相手の話に関連づけていく		
		1	B2	慣れた話題・意見交換で適切な語彙	簡単正確、複雑挑戦	長めの自由発話では、ときどきつかえることはあっても一定のスピードで話す	使える結束表現は限られている、明確なまとまりのある発話	違和感を感じる、適切なときに発話種を取り、語を展開させていく		
		X	B1	慣れた話題適切な語彙を使って話す	初歩文法は正確、複雑な文法も使ってみる	長め発話では休止とあり・話の主要点の伝達可	一語の短い文を接続表現で直接的につなげ、まとめる	次で発話種を取り、～を続け、終わらせる、相手の発言を部分的に繰り返したり		
	1-2	OJAE 設計図	A		○ 1 X	○ 1 X			コメント(論拠)	
B				○ 1 X	○ 1 X			A	B	
14, 46		○	C1	慣れない話題・広い幅の語彙適切に	複雑でもほぼ正確	抽象的な話題以外は、自然な口語体	～を使い、明確な発話を構成	とき、前置き表現、発話種を持って自分の話しを相手の話に関連づけていく		
		1	B2	慣れた話題・意見交換で適切な語彙	簡単正確、複雑挑戦	長めの自由発話では、ときどきつかえることはあっても一定のスピードで話す	使える結束表現は限られている、明確なまとまりのある発話	違和感を感じる、適切なときに発話種を取り、語を展開させていく		
X	B1	慣れた話題適切な語彙を使って話す	基本的文法は正確、複雑な文法も使ってみる	長め発話では休止あり・話の主要点の伝達可	一語の短い文を接続表現で直接的につなげ、まとめる	一語の短い文を接続表現で直接的につなげ、まとめる		42		

2.10 標準化会議→自他評価の比較

仕掛け人(^^)OJAE「協働評価鍛錬の場」



➡現在では、携帯でも可能！

②部外者間→クリッカー使用・対面討議法

於：ベルリン自由大学日本学科 2010. 5. 25; 6. 24

標準化会議 → 「協働評価鍛錬の場」 →
おもしろい会議終了後の充実感の中



終わりに

1. 標準化会議(キャリブレーション)を是非いっしょに！
 2. 個人間のズレを知る
 3. 機関間のベンチマーキングのズレを知る
- ➡➡CEFR圏内は日本語口頭試験評価の統一化へ！